

作品：「変容していく風景」シリーズ

芸術学部
写真・映像メディア学科
教授

百瀬 俊哉



研究シーズの紹介

被写体となっているのは、人工的な都市空間をはじめ郊外の造成中の地、開発によって原形をとどめることなく削られた地、あるいは廃鉱となり打ち捨てられた地などです。そこでは、さまざまな空間を通して、人間の営みの空虚さが表現をするためにこのシリーズを撮り続けています。私が切り取る世界には、単純な怒りや挑戦的な姿勢があるわけではなく、むしろ

淡々と、美しさすらたえながらアートの側面を意識しながら活動を継続しています。



写真表現（表現力）

- 大判カメラによる高精細な表現による独特な色彩表現とあいまり、それら作品が風景写真の新たなうねりが生むことを目指します。

発案→資料収集



撮影→選択→写真構成



作品制作→発表

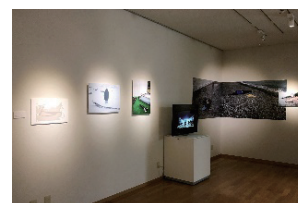


期待される活用シーン

- 多様性のあるアートや文化に触れる環境を写真をキーワードとして提供する



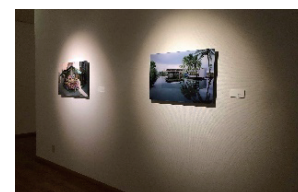
違うアイデア、違う見方があることに気づくことは、今後企業が生き残っていく上で非常に意義深い。



- 「写真はいろいろと奥深い」「もっと写真を楽しめるようにできないか」などの情報を発信する



メディアをはじめ様々な媒体への作品提供する。そして少しでも多くの人たちと感動を共有したい。



その他の研究テーマ

・高解像度写真撮影に関する研究